

区

小学校

先生

横浜市小学校社会科研究会

令和元年

1月8日

6 学年部会

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 杉 本 敬 之

研修会記録

第7号

【提案日時】

12月 4日（水）

講師 大塚 俊明 先生（鎌倉女子大学 教育学部 准教授）

【会 場】

横浜市立山元小学校

講師 宮野 雅樹 先生（学校教育企画部 教育課程推進室 指導主事）

提案 平本 美峰 先生（山元小）

司会 本間 宏志 先生（末吉小）

記録 杉内 翔太 先生（大豆戸小）

提案内容

単元名「新しい時代の幕開け～横浜の生糸貿易が支えた日本の近代化～」

自評

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくり

前段の話し合いの中で生まれた3つの問い（どういう条件？自分で行ったのか？明治天皇が来てと
いったのか？）を切り口に本気の学習問題が成立した。授業の後段にあたる資料提示のタイミングを
もっと早めて、「官営富岡製糸場で働く人募集」を細かく見る時間を作れたらよかった。

グループ討議（○…成果、●…課題）

○子どもたちが自分たちで授業を作り上げる授業形式と子どもたちの反応のよさ

○子どもたちの生活経験に基づく発言力（「上から目線」「明治政府は」「母に聞くと」）

○「長野県からの工女」（小学6年生と同年代を集めることで新たな視点をもてた）

●後段の話し合いで立場（作った政府と受ける工女）を明らかにするとねらいに迫れた。

●その当時の時代背景を理解しておくことが明治政府の意図に気付くためには必要。

全体協議【本時目標や学習問題に迫るために】・・・参観者 □…授業者

- 前半の話し合いが盛り上がった分、後半の展開（資料提示後）が苦しかった。

- 工女がどうしていこうと思ったのか考えると思考が深まったのでは。

□子どもの実態や様子を考えると発言させておきたいと考えて前段が長くなった。

- 資料提示のタイミングで「作った人はどういう意図？」と発問すればよかったのでは。

□確かにそうだが、工女の立場として考えることも大切にしたい。

- 集まらなかったから年齢を下げたことや、女性に対して能力給にしたことを考えるとどうしても集めなかったのでは。子どもが「圧」という言葉を使っていたが本当に「圧」だったのか。

□「圧」だとは思わないが否定はしなかった。全体として深めていくのは次時の予定。

- 単元を見通す学習問題の主語が「明治政府」になっていることが手立てであり、今日のクラスの思考の高まりを考えるとこの展開でよかったのでは。板書をそれぞれの立場で整理するとより立場が明確になり、ねらいたい明治政府の意図に迫れたのではないか。

- 子どもの思考が年齢の差→資料→男女の差→身分の差という流れで変化し、さまざまな立場で考え

ることができたのが素晴らしかった。これから本気で考えていく姿が楽しみ。

指導講評

(宮野先生より)

- 子どもたちとの日々の積み重ねを大切にしていることが分かる学びの多い授業だった。
- 自分と友達の考えのつながりを考えながら発言している姿は学びを調整している姿だった。
- 教材と子どもの距離感が歴史単元は遠くなるが、子どもたちにとって「同世代の女性」を取り上げることが距離感を近づけ、子どもたちの本気の姿につながる手立てとなった。
- 学習問題に対する視点が「身分」「性別」「年齢」とばらついたので、今は何について話しているのか明確にできるとよい。手立てとしては発問や板書などだが、状況に合わせて選ぶとよい。
- 事前に子どもの考えを把握しておいても、学習過程で変わることもあって教師の意図と異なる場合もあるが、それも授業における子どもの学びの変容ととらえられる。
- 今回の授業のように「問い返す」ことでより学習問題に迫ることができる。(授業記録No. 3のT12のように) 問い返す内容によっては逸れてしまうこともあるので注意が必要である。
- 資料として文章量や内容が適切で、子どもたちが発言し終わった後で提示する意図もよかった。
- 「教師として技術を広めてほしい」という明治政府の意図に迫るために、全国から富岡製糸場に集まっていることが分かる壁面にあった資料を活用したり、手記の内容から自分で行きたいと思える根拠を見つけたりすることもできたのではないかな。
- 「上から目線」というキーワードをもとに、明治政府の意図に迫ることもできたのではないかな。

(大塚先生)

- 学習問題の成立について、「～なのに、なぜ…」という「前提」を意識させた問題の成立過程はとても大切だと考える。
- 子どもが問いかける姿(授業記録No. 2のS19やS20)を授業の軸にするとよい。
- 自分の生活経験や学習経験と絡めて発言する姿が印象的だった。
- この単元では、近代化(諸外国に追いつくこと)を目指して工業を発展させた明治政府の意図を考えながら学習を進めていくことになる。そこで「100年に追いつけ」をキーワードに、この学校が「富岡日記を教材化したのが約7年前になる。その積み上げが生きた授業実践だった。
- 工女の募集が女性でなおかつ身分に関係なく行われていたことに近代化の本質が見いだせる。そう考えると、身分の差が激しかった江戸時代の学習が大切になる。
- 授業記録に書かれてはいないが「なんで11歳？」という視点をもっている児童もいたのが◎
- 結果論だが、資料提示後に「役に立ったのか」や「明治政府の意図は見えたのか」と問い返したり実際集まらなかったから年齢を下げたことに着目したりしても本時目標に迫れたのでは。
- 全員に発言を求めると意識が強すぎないか。現在の平本級の様子を見ると、グーやチョコキのサインも必要なく、もっと自然に学習を進めていくことができると感じた。
- 「〇〇さんを指してください」という友達の意見を聞きたいと言える環境が素晴らしい。
- 「聞く価値」について全員が理解することで、より語り合いに近づくのではないかな。

文責 杉内 翔太 (大豆戸 小学校)

発 関口 暁之 (永谷 小学校)